

東京都のJET-ALT活用拡大

東京都教育庁

東京都教育庁教育監 高野敬三さん
インタビュー

聞き手：(一財) 自治体国際化協会

JETプログラム事業部調整課 森田 絵里沙

東京都では、2014年度は100人、2015年度は200人(予定)にJET-ALT(注1)の活用を拡大することにしました。JETプログラムに期待しているところなどについてお聞きしました。

—2014年度からJETプログラムの活用を大きく拡大しようと考えた経緯・理由をお聞かせください。

外国と日本の橋渡しとなるJETプログラム参加者(以下、JET)を配置することの意義は非常に大きいだろうと思うんです。日本で英語の授業をして、一定期間滞在することによって、日本の良さを自分の母国に伝えることができます。当然のことながら、生徒たちにとってみれば、生身の外国人の方と接して、異なったものの考え方、生き方を学ぶことができる貴重な機会となるわけです。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、知日派・親日派の人脈を海外に持つことができる点で、「グラスルーツの外交官」を育成するJETプログラムの導入は東京にとって極めて貴重な財産につながると考えています。

—JETプログラムの良いところは何か。

JETは、比較的生徒と年齢に近い者も多く、授業以外に部活動、学校行事などの活動においても交流できるところが大きな良さですね。生徒にとって親しみやすい存在となっていると思います。

もう一つですが、この事業は、三省とクレアが連携して実施していただいておりますので、きちんとスクリーニングされた方々がいらっしやって、安心

できる点が大きいと考えております。

—新たにJETプログラムを導入しようとしている自治体へアドバイスやメッセージがありましたらお聞かせください。

2014年度にJETを配置した都立学校のほとんどが、初めてJETを受け入れるということで、いろいろな懸念もあったと思います。しかし、そういった対応の不安さを上回る効果が、生徒たちの外国語学習において、てきめんに伸びてきています。JETを受け入れてから学校が変わったという実感を得た先生方が多くいますので、受け入れた意味は大きかったと考えています。

また、東京オリンピック・パラリンピックの開催は国を挙げての事業ですので、日本の教育を変えていくという意気込みで、検討されることをお勧めします。

JETプログラムそのものが日本の教育を変える起爆剤となることは間違いないというように考えております。



高野敬三さんと当協会職員

JET-ALTの配置拡大と
都立高校での取り組み

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

国際教育推進担当係長 森川 比呂志

○東京都教育委員会におけるJET-ALTの配置拡大

東京都教育委員会(以下、都教育委員会)では、域内の都立高等学校および都立中等教育学校に、JET-ALTを配置してきました。2013年度までは、島しょ地区の学校の5人だけでしたが、2014年度

は100人、2015年度は200人に拡大し、すべての都立高等学校などに配置する予定です。

都教育委員会では、これまで授業における生徒指導の補助が主な職務であるNon-JET-ALT(注2)を活用してきましたが、ネイティブとのチーム・ティーチングを増やし、コミュニケーションをより重視した授業に改善するとともに、外国人指導者から部活動や学校行事などの日常的な交流を通じて英語の指導を受けることにより、都立高校生の「使える英語力」の向上や国際理解教育の推進を図るため、JETの配置を拡大することにしました。

加えて、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、帰国後の母国における草の根の大使としての役割も期待しています。

○来日後の東京都の独自研修など

JETは、来日してすぐ、クレアによるオリエンテーションで、日本における外国語教育やチーム・ティーチング、職場でのマナーなどを学びました。都教育委員会では、JETが生活や配置された各学校での職務を円滑に開始できるよう、東京都の教育制度、JETの職務、先輩JETの実例紹介と助言、授業・学校生活などについて2泊3日の宿泊研修を実施しました。その後、一般家庭にホームステイしながら日本の生活習慣、マナーなどを学ぶとともに、ライフラインの開設手続、公共の場所や食事のマナー、日本語や日本文化について学ぶ通所研修を実施しました。さらに、フィールドワークを通じて日本の歴史や防災教育について学びました。また、JET

が住宅を円滑に探すことができるように、業務委託により住宅あっせんおよび入居手続のサポートを行いました。



ホスト先との対面

○学校でのJET-ALTの取り組み

来日時研修を終えて8月に学校に配属されたJETは、日本人教員と協力しながら指導計画を考えたり、自作の教材を開発したりするなど、積極的に生徒の指導に関わっています。また、授業以外でも次

のようなさまざまな活動を行っています。

1 授業以外の教育活動への参加

JETは月16日間、終日学校に勤務しており、授業以外にもさまざまな教育活動を行っています。例えば、部活動では、英語部などでのスピーチやディベートの指導、サッカー部などの運動部の練習への参加、太鼓部で生徒と一緒に太鼓を練習するなど、積極的にコミュニケーションを図ろうとしています。そのほか、英語でのランチタイムを設けて生徒と交流したり、放課後に希望生徒を対象に英会話を教えたり、大学入試の面接対策や英作文の添削を実施している者もいます。さらに、校内の教員を対象にした英語研修を実施するなど、高等学校学習指導要領「外国語」の目標である「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成およびコミュニケーション能力を養う」ために、生徒の指導および日本人教員の指導力向上(英語授業の改善)に寄与しています。



英語部・茶道部のお茶会(東京都立多摩高等学校)

2 学校行事などへの参加

学校行事にも積極的に取り組んでおり、JETが文化祭、体育祭、遠足などの課外活動に参加している学校もあります。なかには、生徒に向けてのメッセージボードが与えられ、そこにメッセージを書いたり、ハロウィンやクリスマスのイベントを告知したりするなど、それぞれ工夫をして、生徒の英語力を高め、コミュニケーションを図ろうと努力しているJETもいます。

○日本の伝統・文化教育の推進

2015年度からは、JETを都内小・中・特別支援学校100校に年数回派遣し、児童・生徒と互いの文化の紹介や体験を通じた交流を行う取り組みを始めます。日本の文化の良さを理解・発信し、互いの文化を尊重した交流ができる児童・生徒を育成するための教育においてもJETを活用していきます。

(注1) JETプログラムの外国語指導助手

(注2) JETプログラム以外の外国語指導助手